

令和4年度 第2回 日進市環境基本計画策定委員会 議事録

- 日 時 令和5年3月16日(木)
午前9時30分から午前11時40分まで
- 会 場 市役所本庁舎4階 第1会議室
- 出席委員 森下英治(会長)、原理史(副会長)、市川和幸(委員)、今村慎吾(委員)、川口暢子(委員)、川島宏道(委員)、瓦口翔馬(委員)、久保田孝(委員)、黒田忠晃(委員)、佐野功治(委員)、堀透(委員)
- 欠席委員 石川雅浩(委員)、大野淳(委員)、村上哲也(委員)
- 事務局 近藤伸治(環境課長)、河村秀根(環境課課長補佐)
祖父江篤人(環境課ESD推進係長)、宮田大(環境課ESD推進係主任)
- 傍聴者 1名
- 内容
□出席委員の確認 14名中11名の出席。日進市附属機関の設置に関する条例施行規則第4条第2項の成立要件を満たしていることを確認。

議題

(1) 報告事項

- ア データでみる日進の環境
- イ アンケート結果
- ウ 市民討議会・リビングラボ

(2) 計画骨子案について

会 長：それでは、議題(1)「報告事項」について事務局から説明をお願いします。

(事務局より説明)

会 長：何かご質問、ご意見はありませんか。

委 員：事業所向けアンケートのP13で「地域住民やNPO等との協働や参加については積極的に取り組みたくない」という事業者がそれなりにあるのは、こういったところが要因なのかわかりますか。

事務局：なぜその設問にそう答えたかの理由についてまで聞いているわけではないので、様々な理由があつてのことだとは思われます。アンケート回答事業者は、小規模事業者や個人事業主が多いため、なかなか日々の仕事の中で地域と協働する余裕がないところが多かったのではないかと推察されます。事業向けアンケートのP16では、「企業の責任として重要」という回答が最も多いところを見ても、まずは自分でできることをやっつけていこうとしているのではないかと思われます。

委 員：事業者アンケートの回答者数が低いですが、従業員数の全体に対する割合がどれくらいかといった規模感がわかれば知りたいです。事業所の規模に応じて回答結果も変わ

ってくるかと思えますので。それから、資料1ですが、温暖化排出量のデータがないです。現在手持ちのデータですと市域全体のCO2が2019年で約41万トンとなっています。また、森林面積とか土地利用についても今後お示しいただければと思います。最後に資料1のP10の苦情件数のうち「地盤沈下」1件と「その他」23件についてどのようなものだったか教えてください。

事務局：「地盤沈下」については、建物工事により隣地の擁壁が下がったものです。また、「その他」については、ゴミのポイ捨てが気になるだとかカヤ毛虫といった害虫が多いといった様々な相談・苦情案件を計上しています。

アンケートについては、P2～4に事業者の属性が示されています。P4にあるとおり、回答者の大部分は従業員数が少ない事業者が回答しています。回答している企業名はわかります。回答率は、感覚的ではありますが、事業者向けアンケートとしては、悪くない数字であると考えています。

委員：事業者アンケートの回答者に二酸化炭素排出量の報告義務がある特定事業者が含まれているかについても把握できればと思います。これら事業者の回答については、別枠で把握できれば良いと思います。

事務局：先ほどの質問の森林面積については、概ね17～18%、農地が12%程度となっています。大部分が宅地等面積であるということが、わかると思います。

委員：資料1のP3について、電気使用量についてはいかがでしょうか。

事務局：電気使用量については、公共施設の推移は、概ね横ばいとなっています。小中学校に、エアコンを設置したことなどが電気使用量が増える要素となっており、一方で省エネ機器の導入による節電効果などがそれらを相殺する形で横ばいとなっているのではないかと推測しています。

委員：資料1のP6で燃えるゴミが増えている要因はわかりますでしょうか。また、資料1のP10で感覚公害という言葉がありますが、公害の定義が大きい気がしますがどうでしょうか。

事務局：燃えるゴミの総量増加は、人口増によるものが大きいかと思えます。生ごみ総量の減量化などに努めていきたいと思えます。それから、「感覚公害」については、生活に関わる身近な相談を県等の定義にならい、感覚公害と定義し、使っているものです。

事務局：先ほどの発言で誤りがありましたので、訂正します。アンケート回答者の事業者名は回答欄を設けておりませんので、把握できないものとなっております。

会長：回答者と企業の関連性はわからないということですね。

会長：それでは、議題1について終了します。続きまして、議題(2)「計画骨子案について」事務局から説明をお願いします。

(事務局より説明)

会長：何かご質問、ご意見はありませんか。

委員：評価はどのようにするのでしょうか。例えば、資料4の目標1には「温室効果ガス排出を「実質ゼロ」に近づけます」とありますが、2030年までの計画期間でゼロに近づけるのは、難しいのではと思います。それから資料1のP1にあるとおり、家庭からの

二酸化炭素排出量は、全国平均値として1世帯当たり3.9tとなっていますが、本当に日進市ではそうなのか気になっています。中部電力や東邦ガスの協力を得て、データを入手し、実態把握に努める必要があるのではないのでしょうか。また、自然関係についても、土地利用の状況について押さえた上で、保全面積等を踏まえて管理・評価できるものとしていただければと思います。あと気になったこととして、SDGSの計画への組み込みかたがどのようになるのかということがあります。

委員：SDGsの施策ごとにゴールの位置づけをしてもらえると分かりやすいと思います。また、施策に地産地消がありますが、日進産のブランドがあると良いと思います。

事務局：「実質ゼロ」に関しては、ゼロカーボンシティ宣言をしていることもあり、このような表現としているものです。また、本日の資料では数字の掲載まではしていません。評価手法としては、KPIを設定し、評価していくこととなりますが、それらについては、今後お示ししていくものです。本日は、骨子案ということで大枠を示したものです。これから各施策にぶら下がる事業やKPIを検討していくなかで、この大枠の表現についてもある程度修正していく可能性があるものです。また、ぶら下がる事業についても、計画期間中を通じて実施の継続性が見込まれるものもあれば、試行的に実施してみる事業もあると想定されます。そのため、事業の概要についても、ある程度の抽象性を保つことにより、試行的な取り組みを含めた様々な取り組みが組み込めるような作りとするよう検証していくつもりです。また、二酸化炭素排出量の実態把握については、今後検証させていただきます。

委員：評価については、わかりました。評価体制については、どのようになるのでしょうか。

事務局：評価体制については、KPIの実績に対して評価し、環境まちづくり評価委員会に諮り、公表していくこととなります。

委員：資料1に出てくるリサイクル率の把握が難しいとの説明でしたが、やろうと思えば出来るのではないかと思います。また、公害に関する指標が苦情件数というのは、少し違和感があります。道路での騒音の測定結果や川での水質の調査などの結果により指標が示されればよいのではないかと思います。緑化率等のデータがあってもよいと思います。住宅を増やすのか、緑を守るのかについても触れることで日進らしさが表現されればと思います。

事務局：資料1のデータは、現状を概観する目的でお示ししたものであり、例えば公害苦情件数は指標ではありません。あくまで現状を示したものです。指標の考え方としては、前計画の指標の設定の仕方の問題点を整理して設定していくものです。例えば、数値を測定することが困難なもの、定義が不明瞭なもの等を避け、目標達成に寄与するものをKPIとして設定していくものです。このことについては、前回委員会でもお話させていただいたとおりです。

委員：重要な指標とそうではない指標があると思います。それらも考えていく必要があると思います。

委員：日進らしさを計画に組み込んでみてはと思います。天白川等豊かであることから「水」というキーワードを表現していただければと思います。

委員：前回計画から構成を変更していくため、指標も変更を加え、引き継げるものは引き継いでいくと理解しています。来年度の素案に向けて指標等を示すスケジュール感はい

かがでしょうか。

事務局：スケジュールについては、次回8月の委員会に向けて指標等を示していければと思います。委員の指標に関するご指摘を踏まえ、前計画の反省を踏まえ、設定していきます。

委員：骨子案とても良いと思います。評価できるものと思います。期待することとして、例えば、太陽光パネルを置くだけでなく蓄電池も置くなどして、効率化を図ってもらえればと思います。SDGsのウエディングケーキモデルがあると思いますが、それらの概念も活用し、組み立ててもらえればと思います。今後の作業は大変かと思いますが頑張ってくださいと思います。

委員：SDGsゴールを各施策へ位置づけてはという質問が他の委員からあったと思いますが、それについてのお答えをいただきたいです。また、指標について、専門的な指標を設けるとそれらの評価について、市民目線ではよくわからないと思います。市民自身が環境の改善を感じられるような指標などがあってもよいと思いました。

事務局：SDGsゴールの各施策への位置づけについては、行っていく予定です。

委員：骨子は非常に良いと思います。KPIだけではなくOKR的な考え方も、時代的にも、取り入れてみてもよいのではないかと思います。また、市民の関心や認知があがったということが分かる評価もよいと思います。

委員：環境都市像はとても良いと思います。せっかく良い標語があるので、目玉というか日進ならではのものがあるとよいと思いました。

委員：骨子はよくまとめられていると思います。骨子だけでは良くわからないことがあり、指標もあればよかったです。

会長：指標に関しては、まだ出来ていないということで、これからということになります。今日のご提案は、指標ではなくて、その手前の骨子となります。より正確性を上げるためにデータをとったらどうかという意見もありました。まず、それはできるものなのか、また、正確性がどの程度あがるのか検討していただければと思います。

骨子案については、この形でご理解いただくということで進めていきたいと思っています。

会長：それでは、議題2について終了します。続きまして、議題(3)「その他」について連絡事項などありましたら、事務局からお願いします。

(事務局より連絡事項)

会長：みなさまのご協力により、滞りなく議事を進めることができ、ありがとうございました。以上をもちまして、第2回日進市環境基本計画策定委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

(午前11時40分)